1953年6月16日　第三種郵便物認可

2022年 7 月11日（月）　3116号　隔週月曜日発行

# 民主青年新聞

●ホームページ　www.dylj.or.jp　●Eメール　minsin@dylj.or.jp

見どころ

核兵器禁止条約第１回締約国会議　「核抑止論」成り立たない　完全廃絶へ決意（３面）

どんな悩みが？どんな工夫を？　勉強の仕方を考える（６、７面）

値上げラッシュの今こそ消費税５％減税を―アベノミクスをやめ、新自由主義からの転換を（10、11面）

# 歴史的政治決戦！

## 地域・職場・学園で、政治を変える展望を広げよう！

今たたかわれている政治戦では、戦争か平和か、新自由主義の継続かが大きく問われています。異常な物価高騰（こうとう）や転換かが大きく問われています。異年は「なんとかしたい」との思いを一層強めています。歴史的政治戦で、草の根で青年「軍事対軍事」があおられるなか、青と結びつきたたかっている東京都の地区委員会・地域協議会の奮闘を取材しました。（栗山さつき記者）

▲この間の情勢を基に、日本共産党がどのような活躍をしてきたか交流した（６月26日、品川）

▲街頭宣伝対話には、多くの青年が参加した（６月19日、新宿）

▲シールボード対話では「戦争はしてほしくない」と平和への思いが出された（６月26日、国分寺）

▲共産党の政策を展望と合わせて青年に伝え、政治は変えられることを伝えた（６月26日、品川）

### 政治の在り方模索する　青年とかみ合う

**疑問にも丁寧にこたえて対話**

八王子地区委員会は６月21日、南大沢駅前で学生向けの街頭宣伝対話を１時間ほど行いました。「政治にとりくんでほしいことは何ですか?」というシールアンケート項目では、「最低賃金１５００円」が最も注目されました。

一方で、出会った学生から「コロナで大企業も大変な状況だし、最低賃金１５００円は良いと思うけれど本当にできるの?」と疑問が出される場面もありました。日本共産党の政策ビラを使いながら、「大企業の内部留保に５年の期限を設けて、毎年２％課税することで財源ができる」「内部留保がたまりすぎると経済が回らなくなる。企業にとってもそれはよくないこと。でも、内部留保の一部を活用することで、経済を回そうというのが共産党の考え方だよ」と政策を伝えると、「他党も賃金上げると言っているけど、どう違うの?」と、さらに質問されました。「これを本当に実現しようとすると、大企業や財界が反対してくる。企業・団体献金を受け取っていない共産党が伸びることで、実現する力は強まるよ」と伝えると、疑問を抱いていたその学生からも支持が得られました。

政府が軍事費を２倍にしようとしていることについて学生・青年に尋ねると、「戦争はしたくない」という思いが圧倒的多数から語られるとともに、「憲法９条を守るべきとうったえても、相手国から攻撃されない保証はない」という複雑な思いが出されました。そこで「ＡＳＥＡＮのとりくみや、第二次世界大戦を経て、国民主権の政治の中で核兵器禁止条約を発効しようという流れがすごく大きくなっていて、今まさに、締約国会議が開かれているよ」と大きな平和への流れと枠組みがあることを話すと、「努力は大事ですね」「しっかり考えたいと思いました。話す前は他の党に投票しようと思っていました」など、納得する学生が多くいました。

**班会が立ち上がる力に**

地区の援助に入っている吉川穂香東京都副委員長は、「青年が自分の根底にある思いをまっすぐ共産党への支持に結びつけるには、民青の活動が大事」と話します。「周りの青年との対話でも展望を届ける民青の役割を実感するし、同盟員が政治戦に立ち上がる上では班会が大切な場となっている」と言います。

八王子地区委員会のある学生班はこの間、学習活動を大切にして班員の「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」への賛同を広げています。「科学的社会主義Ｑ＆Ａ」ブックレットの学習、「参院選直前！　青年・学生全国集会」の視聴などを通じて、「法人税の負担率が中小企業の方が高い負担になり、日本の産業の成長に著（いちじる）しい弊害（へいがい）があることを知った」「共産党が伸びるのは大事だと思った。志位さんの話した最賃１５００円と、その財源の大企業への内部留保課税もすごく理論的」などの感想が出て、理解を深めながらとりくみを進めています。

吉川副委員長は「戦争か平和かが問われるということもあり、全ての同盟員とたたかいたい政治戦。最後まで全班・全同盟員決起にこだわることで、活動を通じて、主権者としてみんなで成長していけるたたかいにしたい」と決意を語ります。（2面につづく）

### 決起集会でラストスパート！　品川地区委員会

品川地区委員会では、多くの青年が立ち上がる機会をつくろうと、６月26日、民青品川地区委員会と日本共産党青年学生後援会の共催で「学習決起集会」を開催しました。まず、香西克介（こうざいかつすけ）日本共産党都委員会青年学生部長から、今回の政治戦の争点と、現在、共産党は東京都で当落線上の大接戦であることが話され、「100年間、自由と平和を貫いてきた党と民青の歴史に確信を持ってたたかいぬこう」とうったえがありました。

その後、どのような思いで政治戦をがんばりたいか、思いを共有しました。久しぶりに活動に参加した同盟員は、学習会を受けて「非正規で月40万円もらうときもあるけれど、週に２回くらいしか家に帰れない。将来を考える余裕がない。展望が持てる社会にするために最賃1500円を実現してほしいので、共産党を応援したい」と語りました。またほかの参加者からも「共産党は唯一、反戦平和を掲げてたたかってきた。コロナ危機の下、生活の問題も共産党がしっかり政策を出しているということをつながりにもしっかりと伝えていきたい」「みんなが生きたいように生きられる社会に変えるためにがんばりたい」などの思いが出されました。つながり対話の経験交流では、「高校時代の同級生が支持を約束してくれた。伝えなければ伝わらないから対話は大事」「パートナーにも話をしたら支持してくれた」などの経験が交流されました。

最後に「東京での日本共産党候補者の勝利、党の躍進」が呼びかけられました。同時に品川での目標は「400対話、200支持」を掲げ、これを達成するために「自分のつながりに対話」「毎週水金のお帰りなさい宣伝への参加」が提起されました。

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701　FAX(03)-5772-5702

日本民主青年同盟中央機関紙

定価（税込み）月680円　〒130円　1部340円
郵便振替00180-4-106690